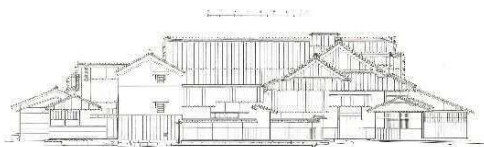
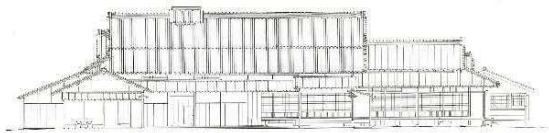


【令和6年度】

重要文化財

旧鴻池新田会所本屋ほか3棟 保存修理工事



旧鴻池新田会所は平成7年に大規模な修理工事を
実施し、嘉永6年(1853)の姿に復原を行っている。

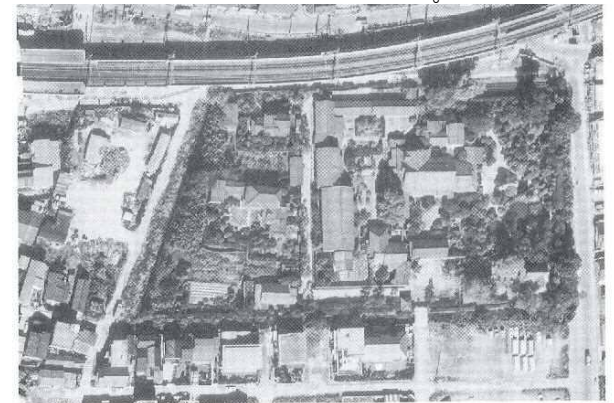
令和元年度に本屋、米蔵、道具蔵の耐震対策事業
を実施した結果、3棟とも耐震補強を必要とすること
が明らかとなったため、令和4年度より補強工事の
実施設計及び補強工事を行っている。また、屋敷
蔵は、地盤沈下により建物が大きく北東へ傾斜して
いたため、併せて修理工事を行い、建物を水平に戻
す工事を実施する。

旧鴻池新田会所について

元禄一六年(一七〇三)、幕府の手によって河内平野を
流れる大和川の付け替えが完成した後、旧河川敷や池沼
が新田として開発されることとなった。開発は町人請負
で行われたが、大坂の鴻池善右衛門もそれに参加し、宝
永五年(一七〇八)には高八七五石余、反別二二〇町歩余
りの大規模な新田が出来上り、鴻池新田と名付けられた。
それと同時に、農民から小作料を徴収し、幕府へ年貢を
納めるなど、新田を経営・管理するための会所が設けら
れ、支配人が置かれた。

現在の会所は、東西に長い台形状の敷地の周囲に濠を
廻らし、その中央東寄りに本屋が建ち、北方に屋敷蔵が
接続する。本屋の南と北には、表長屋門と裏長屋門、西
には文書蔵・米蔵・道具蔵・乾蔵等が配される。昭和の
中頃までは、さらにその西方に役宅が続いていた。

建築年代については、古文書より本屋は新田開発当初
の宝永四年(一七〇七)の建築と思われるが、宝暦九年
(一七五九)、嘉永六年(一八五三)など度々改修されて現
状の姿になっている。ことに座敷部は嘉永にはほとんど
新しくされたようである。文書蔵は天明六年(一七八六)、
米蔵は享和二年(一八〇二)、道具蔵は元文五年(一七八
〇)、屋敷蔵は延享三年(一七四八)の建築であることが、
棟札や建物に残された墨書等よりわかっている。



鴻池新田会所及び役宅の航空写真
(昭和44年10月30日撮影。平成7年度修理工事報告書より。)



平成7年度竣工当時の鴻池新田会所 全景

旧鴻池新田会所本屋ほか3棟保存修理工事の概要

建築年代：【本屋】一七〇七 【屋敷蔵】一七四六 【米蔵】一八〇二

構造形式：【道具蔵】一七四〇

【本屋】桁行二九・七m、梁間一・八m、入母屋造及び切妻造段違、北面突出部、
桁行五・〇m、梁間一・八m、西面及び北面下屋附属、本瓦及び棧瓦葺

【屋敷蔵】土蔵造、桁行七・八m、梁間四・九m、二階建、切妻造、本瓦葺

【米蔵】土蔵造、桁行三・九m、梁間一・〇五m、切妻造、東面庇附属、本瓦葺

【道具蔵】土蔵造、桁行一三・六m、梁間七・六m、切妻造、東面庇附属、本瓦葺

文化財建造物の保存修理について

文化財建造物は、地域の歴史や文化を今に伝える貴重な財産です。
多くの建造物は常に風雨や雪等にさらされており、損傷や老朽化を避けられま
せんが、適切な時期に保存修理を行い、それを繰り返すことによって、より良い
状態で後世に伝えていくことができます。

修理工事の際には建物の持つ価値や情報を失うことがないよう、丁寧に調査を
行い、部材の再利用や技法の継承に努めることが重要です。

工事期間中はご迷惑をおかけしますが、みなさまのご理解とご協力をよろしく
お願い致します。

【旧鴻池新田会所 所在地】
・大阪府東大阪市鴻池元町2番30号
【交通アクセス】

・学研都市線「鴻池新田駅」下車、南東へ徒歩5分(350m)
・近鉄奈良線「河内小阪駅」「八戸ノ里駅」近鉄けいはんな
線「荒本駅」前から近鉄バス「鴻池新田駅行き」に乗車、
終点で下車し、南東へ徒歩5分(350m)
※おねがい：駐車場がありませんので、公共交通機関を
ご利用ください。



※このリーフレットは、重要文化財旧鴻池新田会所本屋ほか
3棟保存修理に関する補助事業の一部として刊行しています。

発注者 東大阪市
設計監理 (公財)文化財建造物保存技術協会
施工 (株)鳥羽瀬社寺建築

旧鴻池新田会所本屋ほか3棟保存修理工事について

修理工事のおおまかな流れ

耐震診断事業
（今回は先行して実施済）

← 地盤調査・耐震診断

着手前

修理計画を立てる

文化庁へ申請、工事決定

← 着手準備、工事入札実施

工事開始

事前調査

仮設工事

足場設置

解体工事

床板・土壁等解体

解体中は破損の度合い、木の樹種や工法、墨書の有無などの調査を行いながら工事を進める。

↑ 現在ココ

↑ 現在ココ

↑ 現在ココ

耐震補強工事

米蔵・道具蔵は壁に耐震補強（構造用合板パネル）を設置。本屋は見えない箇所鉄骨等で補強する。

雑工事

木部復旧、漆喰壁補修など

← 竣工・工事完了

①天井解体オトコベヤ



鉄骨を入れるため、オトコベヤの天井を解体しました。

②床板解体オトコベヤ



床板も解体し、計画した鉄骨が入るかどうか確認します。

③床下掘取り



敷地が史跡地なので、掘削が必要な際は市の担当者が立ち会いを行います。

④捨コンクリート打設



建物が水平垂直でないため、鉄骨を設置するにあたって基準となる面を設置します。

⑦鉄骨建て方完了



⑧鉄骨建て方完了



鉄骨製作工場にて設計図通りの加工されているか確認を行いました。



現場に鉄骨を搬入し、取付を行います。建物を解体しないため、大変な作業です。



建物を傷つけることなく、ほぼ手作業で、鉄骨を設置することができました。



本屋の室内チャノマ・中口クジウマにも鉄骨を設置しました。



屋敷蔵は外部の漆喰の掻き落とし（解体）を丁寧に行いました。



ひび割れなどが生じている場所を中心に壁土を用いて下地の補修をします。



下地補修後、砂漆喰を塗り、漆喰より丈夫な層をつくと同時に表面を平らにします。



真っ白な漆喰で仕上げていきます。表面に凹凸がないよう、丁寧な仕事が必要です。



⑬米蔵合板上中塗状況

米蔵は合板の取付を完了し、合板上に中塗土を塗ります。



⑭米蔵合板上中塗完了

中塗土乾燥状況。周囲の土壁と色味・質感がほぼ同様の雰囲気になっていきます。



⑮米蔵補強格子加工中

耐震補強格子は角材を組み合わせて製作します。非常に正確な仕事が必要です。



⑯米蔵補強格子取付完了

格子を床上で組み、周囲に合わせて塗装後に人がかりで取付けを行いました。

【本屋】オトコベヤ

- ① 天井解体
- ② 床板解体
- ③ 床下鋤取り
- ④ 捨てコンクリート打設
- ⑤ 鉄骨製品検査
- ⑥ 鉄骨建て方状況
- ⑦ 鉄骨建て方完了

や し き ぐ ら
屋敷蔵

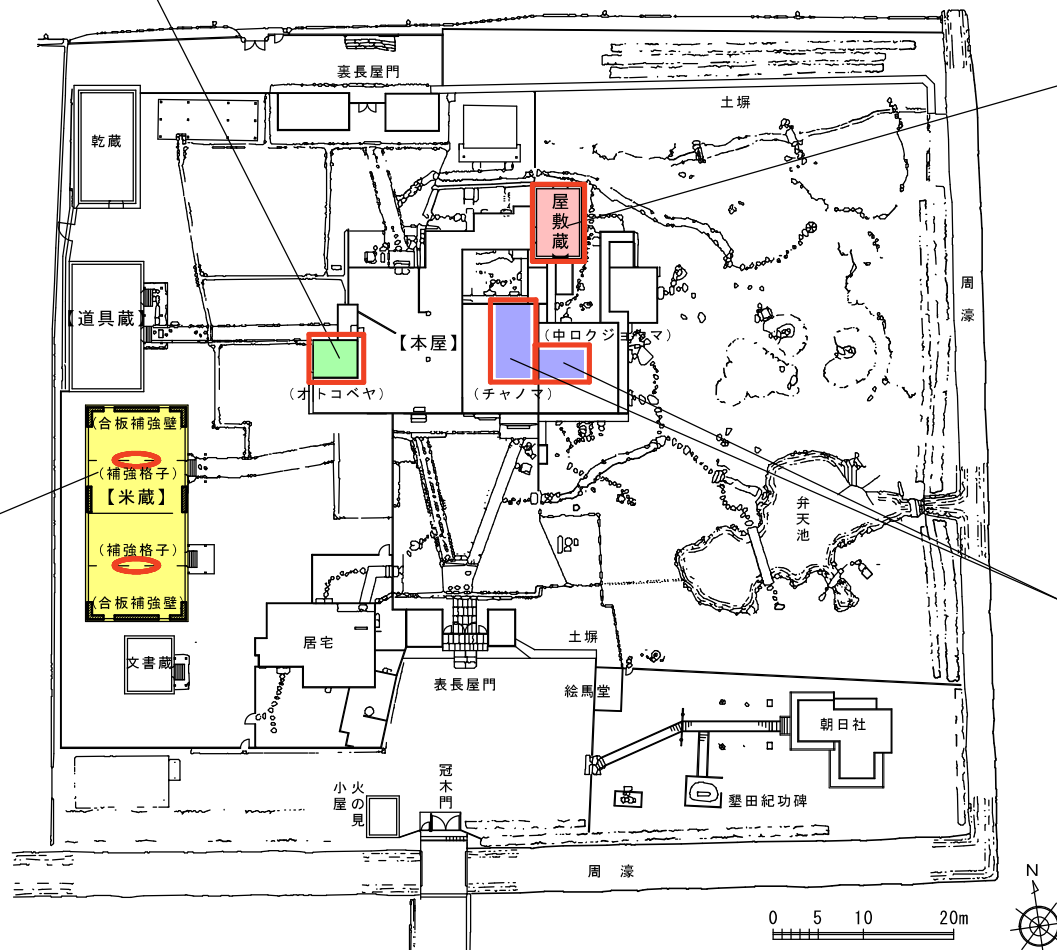
- ⑨ 漆喰解体
- ⑩ 下地補修
- ⑪ 砂漆喰塗施工中
- ⑫ 漆喰塗施工中

こ め ぐ ら
米蔵

- ⑬ 合板上中塗状況
- ⑭ 合板上中塗完了
- ⑮ 補強格子加工中
- ⑯ 補強格子取付完了

【本屋】
チャノマ・中ロクジョウマ

- ⑧ 鉄骨建て方完了



重要文化財 旧鴻池新田会所 配置図